

好機を活かせず

1回戦

11年春季リーグ
第7週・5月18日
0勝1敗

犠打を決められなかった
増本【右】と岡【下】



写真：田上 慧、
堀江 あゆみ
文：山田 遼太郎

4回、同点の好機で三振に倒れた白崎浩

わずか2安打…

亜大・エースの前に

亜大 1-0 駒大

零封負け

点が線にならなかつた。打線は東浜を前に2安打のみ。東都を代表する好投手から白星を挙げることはできなかった。

この試合までに通算12度の完封勝利を挙げている難敵が相手だったが、決して好機がない訳ではなかった。3回、1死から中谷泰周(市3)が4球で出塁するが、増本憲治(社4)の犠打は

優勝の行方を左右する一戦だったが、亜大・東浜巨(3年)沖繩尚を前に、打線が好機で後続につなげられず。5安打1失点に抑えた白崎勇氣(営4)を援護することができず「戦国東都」制覇に向け、後がなくなつた。

亜大	0	1	0	0	0	1
駒大	0	0	0	0	0	0

打安点	打安責
④小林 4 1 0	●白崎勇 9 32 5 0
⑧嘉数 1 0 0	
⑥岡 3 0 0	
⑤白崎 3 0 0	
DH柴田 3 0 0	
②戸柱 3 0 0	
⑦江越 3 0 0	
⑨中谷 1 0 0	
9友滝 0 0 0	
PH柳原 1 0 0	
③増本 2 0 0	
PH下川 1 1 0	
PR松尾 0 0 0	
計 25 2 0	



亜大・東浜と最後まで投げ合った白崎勇

投手へのフライとなり併殺7回にも岡将吾(法4)が無死一塁で走者を送ることができなかった。

4番のバットも元気がない。4回、先頭・小林勇登(経3)の右前安打を口火に、2死三塁の場面をつくつたが、打席に入った白崎浩之(法3)が139キロの変化球に空振り三振。他の2打席も三振に倒れ「三三振…僕の責

コマスポ★ 勝利を願って作られたお守り



毎春、女子マネージャーが選手に送っている「プレゼント」がある。以前はミサンガなどもあったようだが、今年は昨年に引き続きお守りを手渡した。一人約30個ずつ担当し、リーグ戦開幕までにボール型に仕上げた。お守りに込められた思いはもちろん「チームの勝利」。選手だけでなく、3人の女子マネージャーたちも共に戦っている。

この日の1試合目で首位・東洋大が初黒星を喫したが、明日の試合で敗れば、優勝の可能性が消滅する。土俵際に立たされたチームの浮上のカギは、20イニング連続無得点に終わっている打線が握っている。

任」と、うつむいた。先発・白崎勇はけん制の暴投による1失点のみ。3回以降は被安打1に抑え、堂々と08年・選抜甲子園大会の優勝投手と投げ合った。

それだけに、小椋正博監督は「お互いにいいピッチャー。ただ、うちの打線が良くない」と一括。主将も「あれだけ投げてくれれば十分。打線がミスばかりしているから」と、エースをかばった。